

平成 21 年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 9 2 2. 研究機関名 東京工科大学
3. 研究種目名 基盤研究(B) 4. 研究期間 平成 21 年度 ～ 平成 23 年度
5. 課題番号 2 1 3 0 0 0 4 5
6. 研究課題名 笑いがもたらす情報・情動・同調に着目した漫才インタラクションの時空間的分析
7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
2 0 3 5 0 5 0 6	<small>フリガナ</small> イイダ ヒトシ 飯田 仁	メディア学部	教授

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
3 0 4 2 4 3 1 0	<small>フリガナ</small> オカモト マサシ 岡本 雅史	片柳研究所	客員准教授
2 0 3 8 6 7 7 5	<small>フリガナ</small> オオバ マサト 大庭 真人	片柳研究所	研究員
5 0 4 0 9 7 8 6	<small>フリガナ</small> イシモト ユウイチ 石本 祐一	片柳研究所	研究員
1 0 3 5 2 5 5 1	<small>フリガナ</small> サカタ マキコ 阪田 真己子	同志社大学・文化情報学部	准教授
9 0 2 7 5 1 8 1	<small>フリガナ</small> ホソマ ヒロミチ 細馬 宏通	滋賀県立大学・人間文化学部	教授

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

平成21年度は、前年度まで行われた萌芽研究によるデータの整理およびアーカイブ化と漫才師を招聘して得られた大規模な漫才インタラクションの収録データが主な研究成果である。

新たに東京工科大学のホールにてM-1グランプリ優勝経験のあるコンビに、収録協力を依頼し、収録を実施した。本収録の成果は平成22年度にアーカイブ化を進める予定である。東京工科大学において行った漫才収録においては、観客がいない条件および観客がいる条件で同一のネタについて、コントと漫才でそれぞれ演じてもらった。さらに、当該コンビがコントを得意としているため、同一のネタを漫才とコントでそれぞれ演じてもらいコントと漫才における間や立ち位置などの違いについて、データを収集した。収録時には、漫才師の映像を撮影し、発話音声ヘッドセットマイクにより録音するだけでなく、中央前列の12名の観客に対しピンマイクを装着してもらい、漫才公演中の笑い声や独り言などのつぶやきを集音した。これにより観客を俯瞰するカメラのみでは判然としない小声の笑い声や小さな反応についてもデータとして収集することができた。これらの音声データはカチンコにより収録した映像データとの同期を図っている。最後に観客に対してはアンケート調査を行っており、性別・出身地・面白いと思った箇所などの情報も合わせて収集している。

なお、上記漫才収録に関連して、2010年4月13日付で八王子経済新聞およびYahooニュースの地域版に、それぞれ記事が掲載された。

10. キーワード

- (1) ヒューマンインタフェース (2) 漫才インタラクション (3) _____
- (4) _____ (5) _____ (6) _____
- (7) _____ (8) _____

(裏面に続く)

11. 研究発表（平成21年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計（0）件 うち査読付論文 計（0）件

著者名	論文標題			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁

〔学会発表〕 計（3）件 うち招待講演 計（0）件

発表者名	発表標題		
大庭 真人 他2名	観客の反応としての同調現象：漫才における観客の例から		
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本認知心理学会 第7回大会	2009年7月19日	立教大学新座キャンパス	

発表者名	発表標題		
岡本 雅史	相互行為を見せるということ ー〈オープンコミュニケーション〉の認知的デザインに向けてー		
学会等名	発表年月日	発表場所	
第4回ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション研究会(VNV)年次大会	2010年3月6日	国立情報学研究所・東京都	

発表者名	発表標題		
大庭 真人	テーマセッション1：視線の意味とアノテーション 「漫才対話の中の視線」		
学会等名	発表年月日	発表場所	
第4回ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション研究会(VNV)年次大会	2010年3月6日	国立情報学研究所・東京都	

〔図書〕 計（0）件

著者名	出版社		
書名	発行年	総ページ数	

12. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕 計（0）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕 計（0）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別

13. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

八王子経済新聞による漫才収録の紹介記事 http://hachioji.keizai.biz/headline/559/
--